

# 令和5年度 第1回 静岡市多文化共生協議会 議事録

- 1 日 時 2023年7月27日(木) 19:00~20:30
- 2 場 所 静岡市役所 静岡庁舎8階 市長公室
- 3 出席者 多文化共生協議会委員14名  
磐村 文乃、エフィ グスティ、ワフユニ、小川 毅、金 笑杰、  
角替 弘規、照屋 アンヘラ、中島 一彦、中村 直保、野田 敏郎、  
花沢 ウライヤ、肥田 進、松永 秀昭、山下 メリンダ、  
ヤマモト ルシア エミコ  
難波市長、望月観光交流文化局長、岡村観光交流文化局次長、事務局
- 4 傍聴者 なし
- 5 次第
  - 1 開会
  - 2 委嘱式
  - 3 委員紹介
  - 4 会長、副会長の選出
  - 5 静岡市の多文化共生について
  - 6 市長との意見交換
  - 7 その他
  - 8 閉会

事務局（山梨）：

ただ今から、令和5年度第1回静岡市多文化共生協議会を開会いたします。この協議会は、静岡市多文化共生のまち推進条例にもとづき、本市の「多文化共生に係る基本的施策や重要事項についての審議」を役割としています。本日、委員を委嘱する14名の皆さんには、令和6年度末までの2年間の任期の中で、多文化共生のまち推進について、ご審議をいただく予定です。それでは、次第に従って進めさせていただきます。はじめに、委嘱式を執り行います。

（難波市長から委員14名に委嘱状を交付）

事務局（山梨）：

ありがとうございました。続きまして、「次第3 委員紹介」に移ります。

磐村委員：

こんばんは、磐村文乃と申します。私は、長く東アジアで暮らしておりまして、日本語教育や、外国人の就労支援にも携わってまいりました。また市民活動として、やさしい日本語の普及・啓発活動に取り組んでおります。外から静岡を見つめて感じてきたこと、これまでの経験を元に、この協議会で微力ながら貢献できたら幸いです。昨年条例が制定され、計画も策定されましたが、今後多文化共生を推進するうえで、皆様と共に、また関わらせていただくことに感謝し、精一杯務めさせていただきます。

エフィ委員：

インドネシア出身のエフィ グスティ ワフユニです。20年静岡に住んでいます。最初は国費留学生として静岡大学で学び、様々なところでインドネシア語の通訳翻訳をしていました。また、静岡とインドネシアの架け橋として、静岡県ふじのくに留学生親善大使や静岡市国際交流協会の相談員などの活動をしていました。最近では、静岡市の防災リーダー研修を受けました。インドネシアはイスラム教徒が多く、インドネシアから日本に来る留学生・実習生の数が年々増加してきています。永住者の数も多く、それに伴い様々な課題・問題が出てきていると思います。そうした外国人の声を少しでも伝えたいと思います。

小川委員：

小川毅と申します。静岡市校長会から1名ということでお世話になっております。所属の学校は静岡市立北沼上小学校になります。瀬名から少し山の方へ行った小さな学校のため、国際交流とは少し縁遠いですが、静岡市の多文化共生ということで、すべての人にやさしいまちになるように自分も協力できたらと思っています。

金委員：

中国出身の金笑杰です。静岡に来て今年で7年目に入ります。18歳で中国の高校を卒業し、その後静岡大学に留学して教育学を専攻して卒業しました。今は県立大学の大学院に進学して勉強しています。留学生ということで、まわりにいる同じような留学生の声を聞きやすいという強みがあると思いますので、ぜひそこを活かして、貢献できたらという意気込みです。

つのがえいいん  
角替委員：

つのがえひろ き もう しずおかけんりつだいがく しょくひんえいようかがくぶ きょういん しょぞく しょくひんえいようかがくぶ せんもん  
角替弘規と申します。静岡県立大学の食品栄養科学部の教員です。所属は食品栄養科学部ですが、専門  
きょういくがく とく がいこく も こども がくしゅうしえん じっさい ほうじん かっどう  
は教育学で、特に外国にルーツを持つ子供たちの学習支援についてです。実際にNPO法人で活動しながら、  
けんきゅう けんきゅう がいこく こども にほん がっこう なか いろいろ こんなん かか  
研究もしております。外国ルーツの子供たちは、日本の学校の中で色々な困難を抱えているので、  
そこをどのようにサポートをしていくか、関心と呼ぶことは少ないかもしれませんが、ぜひそういうこと  
も広めていきたいと思えます。びりよく おも やく た おも  
微力ではありますけれども、お役に立てればと思っております。

てるやいいん  
照屋委員：

てるや もう しゅっしん なんべい ほこくご ご おっと わたし ねん まえ  
照屋アンヘラと申します。出身は南米のペルーです。母国語はスペイン語です。夫と私は30年ほど前  
にほん いじゅう きい きい むすこ ふたり いま どりつ しごと しずおか しこくさいこうりゅうきょうかい  
に日本に移住し、22歳と24歳の息子が二人いまして今は独立しています。仕事は静岡市国際交流協会の  
ごそうだんいん まいしゅうもくようび きいせいはいびょういん いりょうつうやく あさひ きょうしつ  
スペイン語相談員で、毎週木曜日にやっています。あと済生会病院の医療通訳と朝日カルチャー教室  
でスペイン語を教えています。

なかじまいいん  
中島委員：

いっばんざいだんほうじんしずおかしこくさいこうりゅうきょうかい なかじま いまじ こしょうかい  
一般財団法人静岡市国際交流協会の中島です。今自己紹介をしてくださったアンヘラさんや、メリン  
ダさんと一緒に仕事をしている仲間です。のち はつげん じかん すこ はなし  
後ほど発言の時間をいただいているので、そこで少しお話を  
させていただきます。

なかむらいいん  
中村委員：

しずおかしじちか いれんごうかいちちよう なかわら もう ぜんき きようぎかい だ じょうれい つく  
静岡市自治会連合会会長の中村と申します。前期もこの協議会に出させていただき、条例を作らせてい  
ただいたひとりとして責任を持って出席させていただきました。また意見交換の中で話をさせていただい  
ればと思います。

の だ い い ん  
野田委員：

こくさい がくいんにほんごがっこう にほんご おし の だ もう しずおかしたぶんかきょうせいぎようぎかい  
国際ことば学院日本語学校で日本語を教えます野田と申します。静岡市多文化共生協議会には  
いぜん かか さいきん かんしんじこう りゅうがくせい にほん こ  
以前から関わっておりまして、最近の関心事項は、留学生たちがそもそもどうして日本に来ようとする  
のか、ということです。それを考えることで、日本がもっと魅力的な国になるのではないかと、静岡市が  
もっと住みやすくなるのではないかと意識しながら、留学生に目を向けて、日々仕事をしているところ  
です。みなさんと活発な議論ができたらと思っています。

はなざわい い ん  
花沢委員：

はなざわ もう しゅっしん ねんまえ しずおかじん にほん き  
花沢ウライヤと申します。出身はモロッコですが、6年前から静岡人になりました。日本に来たのは、  
うんめい おも りゆう ふた ひと め おも う おも  
運命だと思います。理由は二つありまして、一つ目はモロッコというミントティーを思い浮かべると思  
いますが、静岡もお茶で有名であるということです。静岡に来てから玉露が大好きになりました。二つ目  
は、日本は「日出ずる国」と呼ばれていますが、モロッコは逆に「日が沈む国」と呼ばれているという  
ことです。今回このような貴重な経験をさせていただくことで、母国のモロッコと日本の橋渡しとして、  
りょうこく なに こうけん おも  
両国に何か貢献できたらと思います。

肥田委員：

肥田進といます。昼間は焼津の中学校で心の教育の相談員ということで働いております。学生の4分の1が外国ルーツの子供たちで、日々の様子を見ていますと、非常に高い言語の壁があり、勉強はほとんど分からず、なかなか手も拳がりません。「言ってごらん」と言うのですが、やはり失敗するのが怖い、間違えて変な日本語をしゃべるのが怖いということで、黙っている子が多いです。昼間はそうした子供たちのサポートをしています。ボランティア活動としては、自主夜間教室を運営しております、外国人も十数人いますが、出入りが激しいです。不登校、引きこもり、高齢者やLGBTなど色々な人々と学びを通じて、情報交流やサポートをしたりしています。

松永委員：

静岡商工会議所の松永と申します。商工会議所では主に中小企業の経営相談や支援などを行っておりますが、全国で421万ある企業のうち、99.7%を占めるのが中小企業であり、中小企業の大きな課題の一つが人材確保と育成です。日本全体の人口が減少する中、労働を担う年齢層の人口も減っております、中小企業が持続可能な発展をするためには、外国人労働者の安定的な確保が重要だと思っております。あわせて、企業にとっても、健康経営の観点からも、就労者との良好な就労関係の確立が必要だと思っております。今回私は二期目になりますが、そうした視点を持って、この会議に参加させていただきたいと思っております。特にこの会議では、外国籍委員の皆さんの生の声を拝聴できる貴重な機会だと思っておりますので、楽しみにしております。

やましたいじん  
山下委員：

フィリピンから来ました山下メリンダです。現在は静岡市国際交流協会のフィリピン語担当の相談員です。そして静岡にあるフィリピンボランティアグループの「NAKAMA」会のアドバイザーとして活動しています。この協議会の一員としてご招待いただきありがとうございます。少しでも役に立てれば幸いです。

いじん  
ヤマモト委員：

静岡大学教育学部の教員のヤマモトです。私は専門の外国人児童生徒の教育を中心に研究をしています。外国人児童生徒というと、多分多くの方々が思い浮かべる課題としては、日本語の問題かと思いますが、私は日本語教育の専門ではないので、別の視点から外国人生徒が抱える課題はなんなのかを、将来先生になる学生と共に課題解決に向けて考えております。

じむきょく やまなし  
事務局（山梨）：

皆さまありがとうございました。それでは、これより「次第4 会長、副会長の選出」を行います。お手元の「資料1 多文化共生のまち推進条例」をご覧ください。「第16条 協議会に会長を置き、委員の互選によりこれを定める」としております。それでは自薦他薦を問わず、会長についてご意見はありますでしょうか。

まつながいじん  
松永委員：

私は第10期の委員を務めさせていただいたのですが、同じく第10期を務めた野田委員を会長として推薦

したいと思ひます。野田委員は国際ことば学院日本語学校の校長を務めておられまして、日本語教育に携わっているということと、市内の留學生の生活支援にも関わっておられるということで、外国籍の方々の実態について精通しているということもありますし、第9期・第10期の二期に渡り協議会委員を經驗されているため、野田委員を会長に推薦したいと思ひます。

事務局（山梨）：

野田委員のご推薦がありました、いかがでしょうか。野田委員にご賛成の方は拍手をお願いします。

（委員から拍手）

野田委員よろしいでしょうか。

野田委員：

よろしくお願ひいたします。

事務局（山梨）：

ありがとうございます。続いて、副会長の選出を行います。多文化共生のまち推進条例第16条第4項により、副会長は会長にご指名いただきます。会長の野田委員、副会長をご指名いただけますでしょうか。

野田会長：



副会長は、花沢ウライヤさんにお願ねがいしたいと思おもいます。いかがでしょうか。

(委員から拍手)

花沢委員：

よろしくお願ねがいします。

事務局(山梨)：

ありがとうございます。野田会長、花沢副会長には、ただいまから議事進行等をお願ねがいいたします。

野田会長：

ただいまから議事進行を務めます会長の野田です。改めまして、どうぞよろしくお願ねがいいたします。こ

こで、静岡市の多文化共生について事務局と中島委員から簡単に説明をお願ねがいします。

事務局(山内)

(静岡市多文化共生のまち推進条例と静岡市多文化共生推進計画について、資料2に沿って説明)

事務局(北川)

(外国籍市民の人口や国籍等の統計情報について、資料3に沿って説明)

なかしまいじん  
中島委員：

背景的な説明は、事務局からありましたので、私共、国際交流協会から見えている範囲の課題を4つと、これから取り組まなければならないと思っていることの2点をお話いたします。相談件数については1,359件に増えたというお話ですが、相談が無くなるのが理想だと考えております。また大半は窓口での手続きの相談ですので、行政の窓口の皆さんには場慣れをしていただきたいです。相手が日本語で話しているのに、外国の方ということで「What's your name?」と英語で話そうとしていることがあります。通訳タブレット等を使って行政の窓口で対応できることはしていただき、私共は難しい問題に対応をしていきたいです。最近増えてきているのは相続の問題で、今年初めて弁護士さんと顧問契約を結び、行政書士会さんとも顧問契約を結んだので、随時そうした相談に対応できるようにしてきました。そこで空いた力で相談員が外に出ていく時間を作っていく、相談窓口を強化していきたいと思っております。もちろん解決は国際交流協会ではできませんので、例えば住居の問題でしたら清水さわやかサービスさん等に解決策を作ってもらえるような連携をしていくことを課題として考えております。先ほど多言語での情報提供を求めているということでしたが、従来ウェブで出していました。しかし、Googleのアナリティクスを見ると、全く見られていないため、昨年8月に全部Facebookに切り替えました。結果は、8月から3月末まで61件出して、21,953件アクセスがあったということで、効果はあったと思っています。7言語で出していますが、どのコミュニティがどのような情報に興味があるかというデータも取っています。今はFacebookに頼っていますが、ウェブサイトを使いやすくすることと、色々なチャンネルを使ってどのコミュニティにどの情報を出していくべきか、ということをやっていきたくて考えています。今いらっしゃる皆さんみたいなキーパーソン、繋いでくれるインフルエンサーみたいな人たちがす

ごく重要で、Facebook等を見れば情報があるよということで、広げていただきたいですし、広げる努力をしていきたいと思ひます。それに関連して、災害時の対応もしてあります。委員のウライヤさんとエフイさんは防災研修を受けていただいたパートナーでもありますが、昨年の台風15号の時に市の災害対策本部から打診があったと同時に災害多言語支援センターを立ち上げました。センターでは、市の防災LINEをトリアージして、翻訳して流すということで、結果16件の情報を流して、15,766件のアクセスがあり、一定の効果があったと思ひています。重要だったのは、普段と同じチャンネルで防災情報を出したということです。今年の台風2号の時は、9件で3,223件のアクセスがありました。この時は土曜日にもかかったため、職員が在宅でLINEとFacebookで発信する体制をとりました。今までは地震のことしかやっていませんでしたが、風水害の経験を二度しましたので、全体のBCP（事業継続計画）を改善して、さらに支援ができる体制にしていきたいと思ひています。日本語教育の話ですが、日曜日と月曜日に日本語教室をやっています。日曜日は働いている方、月曜日は主婦や高齢者が来ます。生活日本語で非常にベーシックなことをやっています。留学生の日本語などは野田先生の所でやっていらっしゃいますが、Can-doと言ひまして、バスに乗るとか、コンビニで物を買う、といった日常で出来ることを増やすための講座をやっています。圧倒的にニーズは多いですがキャパが足りず、教える人も少ないため、今学習者が50人くらいしかいませんが、そこを拡大していきたいと思ひてあります。以上4点が今見えていることで、これからやろうとしていることは、若者世代のグローバルリテラシー（国際対話能力）です。外国と日本の子どもさんと今まで一緒に英語教室をやりましたが、新たに多文化を前提としたコミュニケーション力と共感力を高めるプログラムの作成に努めています。最後は、就職支援の話が出ましたけれども、静岡市は外国人材の受入れがまだそれほど顕在化していないと思ひますが、これが大切

になると思っています。日本の将来推計人口では、2066年には10%が外国人になるというデータが出ていますし、岸田首相も「外国人材」という言い方をし、「外国人労働者」という言い方をやめています。外国人材の受入れを本当にやるという話を6月と7月22日にされています。現在、商工会議所さんと経済研究所さんに相談をしているのですが、今だと直接企業に調査をしてもニーズが出てこないだろうという話ですので、浜松市・豊中市・箕面市をベンチマークにして研究をしています。具体的には国際交流協会が職業紹介をできるような体制を作っています。ハローワークさんからも、働きたい人がいるとのことで逆に相談が来ます。でも、国際交流協会では職業紹介ができないので、国際交流課というよりも、経済局と一緒にやらなければいけないのですが、今年はきっちり企業のニーズを聞き取って、何をしたらいいのかという方向性を出して、静岡市と協議しながら、国際交流協会が次のステップに行けるようにしたいと思っています。松永委員からも、外国人材を入れていかないと中小企業はもたないという話をいただきましたが、何ができるのかという話をこれから進めていきたいと思っています。浜松市は経済界からの要請があつて始まったと伺っています。まだ静岡市の経済界からは直接のニーズは出てきていないと思いますが、少し先取りして、我々と経済局も含めてやっていけたらと考えております。

野田会長：

ありがとうございました。情報をいかに伝えるかという観点、それぞれをいかに結ぶかという観点、主にその2点だったと思いますが、伝えることと結ぶことは本当に重要なことだと思って聞いていました。続きまして、「次第6 市長との意見交換」に入ります。今回これを楽しみにしていた委員もいるかと思

います。私わたしもその一人ひとりです。市長しちやうと皆さんの自由じゆうな意見交換いけんこうかんの時間じかんとしたいと思おもいます。まず、難波市長なんばしちやうの一言ひとことからスタートしていただけますでしょうか。

難波市長なんばしちやう：

4月13日がつ にち しちやうに市長しちやうになったばかりですので、この協議会きようぎかいには初参加はつさんかです。よろしく願ねがいます。今委員いまいいんの皆さんの話はなしを伺うかがって、まさたに多文化たぶんかの方々かたがたにお集まりあついただきたいへんうれお思おもっています。大変大事たいへんだいじな協議会きようぎかいですので、活発かつぱつな意見交換いけんこうかんがおこなわれることを期待きたいしております。私わたしは30年ねんぐらい前まえになりますが、中米ちゆうべいと南米なんべいの接点せつてんのパンマねんすに3年ねん住んでいました。パンマこくさいきんゆうは国際金融センターこくさいきんゆうでもあり、いろいろな国籍こくせきの方々かたがたが住んでいました。そこでどっぷり3年間ねんかんく暮らしたことは、多文化共生たぶんかきょうせいという面めんでは、良い経験けいけんだったと思おもいます。3年後ねんごに日本にほんに帰かえってきた時とき、当時とうじ日本にほんはまだまだ多文化共生たぶんかきょうせいにはなっておらず、茶髪ちやぱつも流行はやっておらず、みんな黒い髪くろかみで同じような顔おなをして、信号しんごうが変わるとみんな同じ方向おなほうこうへ歩いて行き、変な社会へんしゃかいだなと思おもった記憶きおくがあります。そういう面めんでは、今はずいぶん多文化共生たぶんかきょうせいになってきたと思おもいます。ただ、静岡市しずおかしはまだまだそれほど外国籍がいこくせきの人数にんずうは多くはないのではないかとおもいます。全国的ぜんこくてきに見てもそれほど多くはないと思おもいますので、これから更に多文化共生たぶんかきょうせいが進んでいくのではないかとおもっています。先ほど紹介ききしょうかいがありました多文化共生たぶんかきょうせいのまち推進条例すいしんじょうれいと多文化共生推進計画たぶんかきょうせिसいしんけいかくを作つくりましたが、これは大変な努力たいへんどりよくがあり、ここまで出来たのは非常に良いと思おもいますが、あまり計画けいかくにこだわることなく、皆さん日頃みなひごろから色々なこといろいろを思おもっておられると思おもいますので、それをどんどん話はなししていただき、計画けいかくも柔軟じゅうなんに変かえていけばいいと思おもいます。計画けいかくの中に、こんなことをやったら良いといようことが書かいてありますけれども、それもどんどん変かえていったらいいと思おもいますので、是非皆様方ぜひみなさまがたから

活発な議論・ご意見やお考えをいただきたいと思ひます。

野田会長：

先ほど委員の皆さんから自己紹介をしていただきましたが、改めて事務局から説明いただいた、

静岡市多文化共生推進計画の施策のことも構いませんし、また、日頃感じていらっしゃることも、

自由にお話しをしていただければと思ひます。どなたかご発言されたい方はいらっしゃいますでしょうか。

肥田委員：

昨日ちょっとFacebookを見ていましたら、「薬10錠飲むよりも心から笑った方がもっと効果がある」と

いうことわざが出てきました。今のコロナもそうですが、薬を作ることは大変なことです。開発にもの

凄い投資・お金と時間がかかるわけですね。それでもものになるかどうか分からないという事で、これを

プランAと私は言っています。戦艦大和みたいにお金をガンとかけて力技で解決していくことは、こ

れからは出来ないのではないかと思っています。と言いますのは、静岡の人口は頭打ちです。これからど

んどん人口が減っていく時代になり、税収もおそらく減っていきます。そうしますと、市の職員も減っ

ていき行政サービスも落ちていきます。そのような状況がこれから起こるという事を考えて、今後は

どういう方向にシフトしていかなければならないかと考えると、これは心から笑った方がもっと効果

があるという事です。と言いますのも、心から笑えるような地域を作らなければいけないということな

のです。それぞれの地域に住んでいる人がエンパワーメントして、自分たちの課題というのは行政の課題

でもあるわけなのですが、自分たちの地域の課題という捉え方をしていけないと結局は行政サービスを待っていても解決できません。これをプランBといいます。そういう環境をどうやって作っていくのか、そういう市民をどう育てていくのか。結局行政は自分たちがやるのではなくてマネジメントをする、サポートをする立場にこれらなっていけないと、おそらく立ち行かなくなっていくのではないのかと思います。小川さんも校長先生をやっていらして、私も教員出身なのですが、教育委員会の放課後子ども教室というものがあります。これは文部科学省から出てきたのですが、教育総務課がすごく頑張ったと思います。コーディネーターになって、そういう地域をつくるバックアップを作っていました。この国際交流の関係でいうと、やっぱり一番ネックになるのは現場がないことです。子ども教室ですと、学校があります。それから防災ですと、自治会があります。そうした現場を持っていないということが、国際交流の場合には非常にネックになってくるのではないかと思います。どこかと連携をして、それぞれの課題についてそれぞれの地域で解決していくようなシステムを、時間をかけて作っていくことがこれから大事になってくると思います。

野田会長：

笑うことの効果というのは、もう少し言うと、どういう効果が期待できるのでしょうか。

肥田委員：

例えば私達がやっている自主夜間教室ですと、外国人の方が来ます。その時にこういうことがありました。フィリピンの方がいじめにあって、訴訟を起こすと言うのです。僕たちは、証拠も提出しなければ

ならないし、得になることは何も無いから、それはやめた方がいいよと言いました。自分が身を引くという  
ことで、我々が新しい所を紹介したりしたのですが、やはり社会の課題というのは、国際の課題だ  
けで捉えていくと良くないのではないのかと思います。教育もあるし、福祉もあるし、色々なものが  
総合的に絡まって、社会的な課題になってきます。本当に笑いが起こるといのはそういう人たち、これ  
はもう外国人とか日本人とか、障害がある無しにかかわらず、あらゆる人たちがそうだと思いますが、  
その人のニーズに沿った伴走をするという形をとっていかないと、本当の笑いというは出てこないの  
ではないかと思ひます。伴走するのは国際交流課でやろうとしても無理です。やはり地域がその人のニ  
ーズをわかって伴走してあげるといことを、分散型でできていかないと、難しいのではないかと思ひ  
ます。笑いというはそういうふうにとらえています。

野田会長：

ありがとうございました。副会長の花沢さんいかがでしょうか。今お子さんを育てながら日々生活をさ  
れているということでしたけれども、静岡市での子育ての状況などありましたら。

花沢副会長：

4歳の娘がいます、出産してまだ数カ月でもう仕事をしなければならなかったのですが、まず、保育  
園の探し方が全く分かりませんでした。保育園があること自体も知らなかったため、どこに子どもを預  
けたらいいのかも分からず、たまたま近くの児童館に行ったら、そこにいた日本人のお母さんに、どうす  
るのか聞かれました。そこで日本だといふう申請しないといけないと言われました。あの方がい



なければ申請もできなかったですし、仕事も多分できなかったと思います。とりあえず申請は無事に終わり、保育園に入ることはできたのですが、娘はピアスの穴を開けていました。母国ですと、女の子が生まれてくると、生まれてきてくれてありがとう、と感謝の気持ちで開けてあげるのですが、最初何力所かの保育園に行って、結構難しいと言われました。最後に行った所ですと、日本人の子供たちに、日本の文化だけがあるわけではないということを知って欲しいので、ありのままがいいですよと言われました。今も全然問題無く生活できているのですが、確かに子育て中だとフルタイムの仕事だとちょっと難しいなということがありまして、ずっとバイトかフリーランスでやるしかなく、大変な時は結構大変でした。病気になってしまうと、バイトを休まないといけませんし、周りの皆さんに迷惑かけながら、私もクタクタで家に帰って娘の面倒を見ないといけません。外国人に限らず、日本人のお母さんたちも結構大変だと日本に来て思いました。

野田会長：

少子化の問題は別に日本人だけの問題ではなくて、保育園が見つけない、それがまた外国籍の方だとなおさらという問題は、前の協議会の中でもそうした話があったと記憶しております。他に子育てでこういう所が困ったという方とかいらっしゃいませんか。

エフィ委員：

子育てとは別の話になりますが、静岡県内でのインドネシアの現状がどういうふうになっているのかと申しますと、インドネシア人のグループがありまして、多分インドネシア人の相談件数があまり出てきて

いないのですが、それはなぜかという、グループごとに先輩がいるからです。例えば静岡大学ですと静岡大学のインドネシア留学生会、県立大学や、あとは実習生会があって、全員Facebookを使って繋がっています。知らない人でもみんな繋がっており、問題があったら、先輩たち、上の人たちが対応するのが現状で、私は先輩の一人としてやらせていただいているのですが、やはり相談が多く、一番が小学校に入る時の手続きです。あまりにも手続きが多く、すべて日本語で難しい漢字があると分かりません。私も仕事があるため、時間もかけられません。あとは女性であればできれば女医がいる病院がいいと言われたり、あとは健康保険の通知がきてもわけが分からないと言われます。私でもすべてが分かるということではありません。健康保険の内容をもっとやさしい表現にできたらいいと思います。「あなたは今月まだ支払をしていないから、この分払ってください。」と簡単でいいのではないかと思うのですが、そうではなくて何枚もあり、分からなくて理解をするには一日では無理です。そこで先輩たちと後輩たちの繋ぎがあり、インドネシア人の相談件数があまり出てこないのだと思います。2点目は、宗教のことですが、インドネシアはイスラム教が多い国です。イスラム教徒をムスリムと言いますが、1日に5回お祈りをします。私が静岡市に暮らしている多くのムスリムに何が困っていますかと質問をすると、街やショッピングモールなどで礼拝をする所がないという返事がいつもあります。私達ムスリムが、街で行われるイベントとかに参加したり、商業施設でショッピングしたり、駅とかで待ち合わせしたりする時に、お祈り時間になっても礼拝場所がないので、すぐに自宅へ帰らなければならないので、外出するたびに落ち着きません。お祈りは決まった時間にやらなければならないので、外出する時は場所確保が悩みの種の一つであるとみんな思っています。他の県の例をみると、東京都・神奈川県・大阪府は駅やショッピングモール等の公共の場所に礼拝スペースが設けられていました。静岡県内では掛川花鳥

園とか、富士山静岡空港、東名高速道路の浜名湖サービスエリア、足柄サービスエリア下りには礼拝室があります。イスラム教徒の静岡市民にとってより過ごしやすいだけでなく、ムスリムの観光客にもより快適に滞在時間を過ごせるように、そのような礼拝スペースの設置をご検討いただけないかと思っています。

野田会長：

言語表記については、昔に比べれば、割と多言語化したという印象はありますが、まだまだ礼拝や食品については、この国はガラパゴスと言われることがありまして、書類の手続きも含めて独特なところが残っているような感じが私もあります。外国に関係のある委員からのご意見もありましたけれど、メリンダさんいかがでしょうか。

山下委員：

Facebookからなのですが、日本で公開されているフィリピンのニュースで8,000人以上の外国人の子供たちが学校に通っていないことを読みました。数年前には学校に通っていない子供たちは約1万人と書いてあります。日本の教育省によると、日本の学校は無料であることを、日本に住むすべての外国人に知らせたいと書いてあります。実は、学校が無料かどうかは彼らにとっては問題ではないと思います。実は私も静岡で、日本に来たばかりで学校に行きたくないフィリピン人の子供たちに何人か出会ったことがあります。その子供たちに、なぜ学校に行かないのか、あるいは学校に行きたくないのかを聞くと、皆さんの答えは日本語の壁だけではなく日本の授業や学習、そして学校のルールについても全く分からない

いから、とのことでした。彼らはまだ友達もいないので、その無力感を感じています。ある時には、クラスメイトからのいじめもありました。お金の問題もちろん、教師の問題もあります。教師から不当な扱いを受けた子もいました。そのため、静岡市にそうした問題について何とかしていただきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。

の だ かいちょう  
野田会長：

ありがとうございます。先ほど、事務局から紹介のありました外国人住民アンケートの調査結果によると、生活していて一番の悩みは日本語であるという回答がありました。よく私も仕事で留学生の就職活動のお手伝いとかで関わるのですが、企業様からアンケートを取りますと、外国人の就労で一番求めるものは何かということ日本語力だと言います。ただ、そうしたアンケート調査と今の山下メリンダさんのお話を聞くと、もしかしたら実際に困っていることと乖離があるのかもしれないという気がしました。実際、特にお子さんのいる外国の家庭で悩まれている方は本当に多いのではないかと思います。やはり日本の学校文化といいますか、あるいは就職であれば就職の文化みたいなものが世界標準とは違い、かなり日本独特なものがある気がします。ありがとうございます。では、留学生の金さん、いかがでしょうか。

じんいじん  
金委員：

みなさまのご意見を聞き、すごく共感した部分がたくさんありワクワクしています。私からは未熟な話になりますが、3つほど話をしたいと思います。まず、中島さんのおっしゃったグローバルリテラシーに

ついてで、その必要性がとてもあると私自身も感じました。面接の時も、実はそのグローバルリテラシーのこと、多言語で講座を開きながら地元の外国人も活躍出来る場所を作りながら発信していくという形を知らなかったのですが、同じことを考えていました。その時は、私自身そういう場所を作りたいという意気込みもあったのですが、なかなか作る難しさを感じている状況です。ぜひ、今後皆さんの力を借りてやりたいと思います。

次に、外国人材についてですが、とても共感したのは中 小企業が多い現状で、静岡県の留学生にはあまり認知されていない中 小企業、しかも人材をすごく求めている中 小企業がたくさんあります。

留学生の私自身も経験したのですが、就活が始まってやばいやばいという状況で、まわりの日本人は普通に大手とかの一般的な就活のプロセスをやっており、自分も「しずまっち」で、SPI（適性検査）とかどうやるのか分からないことがたくさんあり、友達もそうでした。それで結局、日本で就職を目指したけど諦めたという人も沢山まわりにいました。そこがすごい問題点で課題を感じました。日本に自分の理想とか希望や夢を持って来たのに、いざ就職しようとする時に諦めて帰国してしまう人いるので、外国人の人材をどう定着させていくのかも課題だと感じています。

この2つについて、肥田さんの話で私が理解したのは、主体性を持たせると、皆さんが自然に自発的に地域活性化を、また教育の面の課題も少しずつ改善できるのではないかと思います。今日は外国人の方が表に出てきていますが、実は裏に活躍できる場所がないなどで、隠れている人がたくさんいるというのが現実です。外国人住民アンケート調査も、3,000人に調査したのに半数以下の回答しかないということも、そこに主体性が足りないからではないかと思っています。どのように一人ひとり外国人住民に主体性を持たせるかを、行政と私達と一緒に考えていきたいと思っています。

野田会長：

ありがとうございました。角替委員お願いします。

角替委員：

実は静岡県立大学で去年からSDGsガイドという授業が全学対象で全学共通科目として開設され、SDGsの17ある目標の中から15選べられ、それぞれ担当する教員がはりつけられました。そのひとりとして、「質の高い教育をみんなに」というSDGsの4番目の目標を去年から担当させてもらっています。その中で、今回、多文化共生協議会とのことで、多文化共生の観点から質の高い教育を考えるとどうなのか、ということをお聞きしながら皆さんの意見を伺っておりました。SDGsといいますと、開発教育が先に立ち、いわゆる後進国に対して開発教育をどうするのか、教育支援をどうするのかという話を中心になるのですが、国内に転じて実は日本で教育の機会が十分保障されているかということ、案外そうでもありません。とりわけ外国籍の子供たちに対しては特に日本の教育環境を見ていると極めて脆弱であるとしか言いようがない状況にあります。これは特に静岡がそうだとということではなく全国的に東京でも神奈川でもそうです。ただ、やはり静岡市、あるいは静岡県でも全国的にもそうだと思いますが、不登校の率が非常に高くなってきています。やはりいじめがなかなか無くなっていかない、むしろ増えているという状況を考えた時に、教育をめぐる競争的な環境というものが、もう少し何とかならないかと考えたりします。とりわけ外国籍の子供の教育に関すると、この計画とか行政文章の中にもありますが、どうしても日本語教育が先に来てしまいます。当たり前なのですが。僕たちがイギリスやアメリカに行ったら英語、スペインに行ったらスペイン語となってしまいます。ですから当然、日本語を、ということ

が先に出てきます。これはわかりますが、外国人の子供の学習支援をやっていると、ひとつ大きく問題になるのは、学力もさることながら結局それがどこに繋がるかという、ひとつは進学です。とりわけ、高校進学です。日本社会の特に現代では、もうお分かりだと思いますが中卒の労働市場、そこに対する待遇。あるいは高卒での就職もどうなのかと考えると、やはり学歴が高い方が賃金的には良くなっており、高い学歴を習得させることが重要になります。しかし、とりわけ外国人の子供たちに対しては高校進学でもものすごく壁が高く、日本人が予想している以上にすごく高いです。日本語で自己アピールしろと言われても、それがものすごい壁になってしまいます。そうした時に、その進学の問題をどうするのか。あわせて就職の問題をどうするのか。その将来設計を子供たちにどう持たせるのかを考えた時に、日本語教育だけで本当にいいのか。それも、生活言語だけでいいのか。学習言語もちゃんとしていかないと、ということを見ると、結構やることはいっぱいあると思います。とりわけそれが、ゆくゆくは子供たちのアイデンティティの形成にやはり大きく関わってきます。私はお父さん、お母さんに小学校5、6年生の時に言われて日本に来たけれど、高校生になって「じゃあ私は何人なの」となった時に自分の元になる言葉を知らない、日本語も十分しゃべれないと言った時に、それを親とどうしゃべればいいのかという問題が実はありまして、アイデンティティの形成の問題として大きく関わってくるのではないかと考えています。そうした意味では、日本語教育だけではなく、やはり母語をどう保障してあげられるのか。スペイン語、英語、タガログ語など色々あると思いますが、そうした子供たちが親御さんとコミュニケーションをはかる、将来自分はどうかこう生きていきたいとか、すごく難しいことを自分たちの言葉でしゃべれるように、どこかで学習する機会を用意することも多文化共生を考えた上で、質の高い教育に結びついていくのではないかと考えています。具体的にどうすればいいかは私も分かり

ませんが、ただその理念としてはそうした所をひとつの目標として置いておくことも重要だと思いません。

野田会長：

ありがとうございました。よく日本語教育の中でも質を高めると言うのですが、質とは一体なんなのかとよく考えることがあります。静岡にいる色々な外国籍の方であるとか、そうした地域に関わる方との話を聞いて本当に良かったと思います。本当にリアルな生ものだと思います。こうしたデータやよく言われている事だけではなく、生の声でこうした生ものがこの場で出揃ったと感じました。これを受けまして難波市長、どのような感想をお持ちなのか伺ってもよろしいでしょうか。

難波市長：

まさに生の声をいただきまして、本当にありがとうございます。現場の声、本当に困っていることについてお伺いできたと思います。最初にこの多文化共生推進計画の話をしました、初めて見た時にどう思ったかといいますと、生の声が入っていないということです。非常にお役所の仕事できれいに書かれています、本当に困っていることに応えるようになっていないのです。計画というこのようなきれいなものではなくて、もっと生の困っていることに対して、どう応えていくかというものを作っていないと、本当の意味での結果は出てこないと思います。つまり計画自体はいいのですが、この計画の下にもっと個別の具体的な問題に対する改善策を作らないと、実際の多文化共生には繋がらないと思っています。先ほどイスラムのお祈りの場所についてのお話でしたが、静岡空港を作った時に、川勝知事が強



い思いで、どうしても礼拝堂を作るといこと空港の中へ置きました。例えば蒲原で「やましち」さんというお鮎屋さんがありますが、そこには礼拝の場所があり、インドネシアの方もよく行かれています。はないかと思いますが、そういう場所が市内にいくつも自然にできていないといけません。ただありません。思えばあれば作れるわけですから、お祈りする場所をここここここに作りますと具体的な計画を作っていくことが大事だと思います。その他にも、保育園に入る時とか、学校に入る時とかに、非常に困っているという話がありました。それはどういシステムを作て解決していくかという、具体的なものを作ていくことです。なんとなく、市がやると冊子を作てみんなに啓発をして、多文化共生が大事ですという話を一般論としてしていくことが多いですが、ほとんど効果がないです。それよりもやはり具体的な問題について、ひとつひとつ丁寧に解決していくことが大事だと思います。最初に、現場がないという話もいただきましたけど、市の職員を置いて現場で解決する具体的な場所を持っていないので、そういう所に手が届いていないのです。今日は非常に短い時間でしたから、皆さん非常に配慮されて、短くお答えをされましたけど、本当にたくさん問題があると思ていますので、これから個別に皆さまにお話を伺い、こういうことをやるべき、こういうことで困っているということを具体的に伺いして、それをひとつひとつ丁寧に解決することが大事だと思います。皆さまと申しあげましたけど、例えばエフィさんがおっしゃった、まさにネットワークの一番上におられて色々な情報が入て来るわけですから、個人ではなくて、そういう皆さんのお声をうまく集めるような仕組みを作り、それに対して丁寧に答えていく、解決策を探て行くというやり方をこれからやていかなければいけないと思ています。そのような感想を持ちました。

野田会長：

ありがとうございました。大変恐縮ではありますが、そろそろ終了時間となりましたので、これにて意見交換の時間を終了といたします。本日は、ありがとうございました。それでは、事務局からお願い  
します。

事務局（山梨）：

本日頂いたご意見の要旨は、次回の協議会の資料としてまとめます。いただいた意見をもとに、次回議論  
いただくテーマも追ってお知らせいたします。次回の第2回多文化共生協議会は、9月21日木曜日を予定  
しております。それでは最後に、閉会にあたりまして、静岡市観光交流文化局長の望月からご挨拶申  
し上げます。

望月観光交流文化局長：

本日は生の声をいただき、本当にありがとうございます。本日から2年間という任期のなかで、もっと皆  
さんから現場の声を聴かせていただき、また色々と教えていただきたいと思います。計画ができて  
はいますが、もっと皆さんの声を反映できるように、変えるべきところはどんどん変えていくという気持  
ちで我々もおりますので、これからも皆さんのご意見をいただいて、皆さんにとっても住みやすい街にし  
ていきたいと思っております。

事務局（山梨）：

ありがとうございました。以上いじょうをもちまして、第1回だい多文化共生かい たぶんかきょうせいきょう協議会ぎかいを閉会へいかいいたします。

以い上じょう

会議録署名かいぎろくしよめい人にん

会かい長ちやう 野田の だ 敏郎としろう